

若者よ、チェーンソーを手に森へ出よ

深い緑の山々、しんとした空気の中かで聞こえてくる川のせせらぎと鳥の声。ここ東京都の西部、都心から約50km離れた檜原村で築400年の家屋に事務所をかまえる会社がある。林業への熱い思いを抱く若者たちが集う「株式会社 東京チェーンソーズ」だ。日本は国土面積の67%を森林が占める、世界でも有数の森林国である一方、木材価格の低迷、高齢化など林業のもつイメージは明るいものとはいえない現実がある。新しい林業に挑む彼らの想いとは一体どのようなものなのだろうか。



代表 青木 亮輔 さん

林業の現状

私たちが林業を営む檜原村は、全面積のうち93%を森林が占めている山深いところです。東京都の林業は、木材生産だけでなく森林環境を整えることにも力を入れています。個人の山主さんと25年契約して間伐の費用を都が負担するという森林再生事業や、集落全体で山の環境を整えようという、林野庁による森林再生プランなどがあります。

林業の魅力

間伐をしていない森は木がうっそうと茂り、とても暗いです。一方、間伐をしたあとの森は日がさんさんと差し込み、同じ森とは思えないほど違う姿を見せてくれます。また、細い木のうちに枝を落とす枝打ちという作業があります。これを行うことで、木の根元も先の方も同じ太さのきれいな丸太ができるのです。このように山の仕事はやればやるほど結果が目に見えるところにやりがいを感じます。

一方で、木を植えてから材木として伐採できるまでのスパンがとても長いのが特徴です。植えてから50年、最低でも30年かかる。この期間の長さがデメリットでもあります。見方を変えれば林業の魅力でもあります。例えば、若い木のうちに枝打ちをすると、バームクーヘンのように年輪がどんどん積み重なって、さらに20年ぐらいたつと、木の節がなかに入った無節の柱がとれるようになります。宮大工さんたちが使う、節が見えないツルツルした木肌のきれいな柱にすることができます。枝打ちなどの作業を繰り返していくうちに、あと20年後にはこの木は高く売れるだろうと想像してわくわくするんです。そういったスパンの長い視野で物事を考えられるところが、この仕事

の魅力でもありますね。

森の仕事

伐採、植えつけ、下草刈り、除伐、枝打ち、間伐という作業を繰り返します。このあとは山主さんが、どんな木がほしいかによって計画は変わっていきます。200年かけて間伐をして、それを売っていくやり方もあるし、伐採をして、大きくなったら全部伐採してまたそこに植える方法もあります。これを繰り返すと、資源としてずっと再生産可能なわけですね。そういう意味では、石油を採掘する事業などと違って、人が手をかけてあげれば、いつまでもその土地でつくり続けることができるというのが、この林業という仕事の大きな特徴ですね。

私たちはこうした木材生産や森林整備のほかに、林業を楽しんでもらうためのイベントも行っています。林業の仕事を体験してもらおうツアーやチェーンソーを使った間伐体験会もあります。なかでもツリークライミングという木登りはたいへん人気で、1回に15名ほどの参加者が集まります。年に12回ほどやっていますが、年々参加者が増えていきます。都市に住む多くの人々は、森林セラピーや林業体験など癒しを求めているようです。

「東京チェーンソーズ」誕生

もともと山や自然が大好きでした。大学で所属していた探検部の活動に熱を入れすぎて、就職活動に出遅れてしまっていました。そこで、若い人が少ない林業の世界なら自分を必要としてくれるのではないかと思い、なんとなく足を踏み入れたのです。そこで地元の森林組合に入り、檜原村に配属になりました。森林組合で4、5年働くうちに林業という仕事にどんどん引き込まれていきま

した。しかし、雇用待遇の改善の要求を聞き入れてもらえなかったことから、志を同じくする3人の仲間と起業することにしたんです。2006年7月「東京チェンソーズ」の誕生でした。東京にも森があることを知ってほしい、東京の森を生かしてきれいな空気と水を再生することで地球の幸せにつなげたいという思いがありました。

創業して9年目を迎える今年、研修生やアルバイトも含めてメンバーは14名になりました。林業をやりたいと3年がかりで入社した初の女性メンバーや、IT関係の仕事から転職したメンバーもいます。林業界全体の動きとしては人件費を節約したり作業の効率化を図るために実際の作業を外注化したりする傾向にあります。しかし、うちはその逆です。檜原村に根づいた会社であることに力を入れてきたい。山主さんからすればこの地域のことをまったく知らない人が来ることに不安を感じる人もいます。山の仕事はその地域の地理をよく知っていることが大切です。東京チェンソーズに頼めば、この村のことも山主さんの事情もよく知ったいつものメンバーがくるという信頼関係をつくっていきたくて考えています。

林業のイメージを変えたい

林業といってもイメージがわからない人が多いと思います。でも林業のすべてを理解してもらう必要もなくて、林業のいいところをまずは知ってほしいです。林業のイベントは、環境について学んでもらおうという主旨で、間伐体験や下刈り体験を行うのが主流です。でも主催者側の多くが、「どうだ、林業はたいへんだろう」とか「つらいだろう」ということを、体験会で一生懸命アピールしているように私には感じられました。ただ同情を求めているような印象だったんです。でもそれはその先何につながるのでしょうか。それより、純粋に楽しんでもらえるようなイベントのほうがいい。ツリークライミングなら、まずは純粋に楽しんでもらえるんじゃないか、その思いで始めました。また、創業当時、いろいろな人に林業を知ってもらいたいと考えたのですが、やはり今までの林業のイメージは、危険、汚い、給料が安いなど3Kといわれるものでした。それを変えて、林業っ

伐採のようす
(東京チェンソーズ提供)



てかっこいいと思ってもらいたい。ツリークライミングで木に登っている姿を見てもらって「ああ、いいな」ってと思ってもらいたいです。林業って木を切るだけじゃないんだねって思ってもらえるとうれしいです。林業のイメージをよくしたいという気持ちが強くあります。

森と人をつなぐ

2014年の秋から「東京美林倶楽部」という会を立ち上げる予定です。これに入会すると、3本の苗木を買って育ててもらいます。その間、下草刈りや間伐などの作業を体験的に楽しんでもらい、木が育った30年後には3本のうち2本を使ってもらいます。家の柱にしてもいいし、子どもの結婚式の引き出物をつくってもいい。30年かけて自分が育てた木を自分で使う。同時に山の手入れもできる。これが実現すると、林業の新しい形が生まれると思います。林業に縁遠い人たちにも林業の仕事を理解してもらえるし、こうした形で林業に関わることができるんだと知ってもらえることができます。また、檜原村の木材を使って、地元の職人がつくった木のおもちゃや日用品を売り出したいと考えています。東京チェンソーズが伐採して檜原村の製材屋さんが加工したおもちゃを都会の子どもたちが使う。植えるところから加工するまでのストーリーが見えればもっと林業に関心をもってもらえると思います。木のよさを見直さきっかけになればうれしいですね。